奥萩溪谷長門峡の自然の不思議

山口県中央の山間部から日本海に流れ込む阿武川。阿武川ダムによってできた湖に流れ込む前は、川の両岸は険しい垂直の断崖絶壁になっている。全長 12km の長門峡があり、川岸に沿って緑豊かな風景の中を遊歩道が整備されている。峡谷の入口で二つの川がぶつかり合い、下流に落ちていく。この絶景は 1800 年代以降、多くの画家たちの絵画の題材となってきた。ここでは植物と野生動物、そして人が穏やかに自然の中で共存している。

須佐・江崎湾

高山によって分断された須佐・江崎の天然の港は、千年以上も昔から漁師たちに利用されてきた。江戸時代（1603～1867）にはこれらの港から萩城下町に魚が送られ、そこからさらに大阪の堺の賑やかな市場に送られていた。また、須佐は砂岩と泥岩の層状断崖「須佐ホルンフェルス」がある場所でもある。